

つくば子どもの青い羽根基金

アニュアルレポート

2022年4月～2023年3月



つくば市

2023年10月発行

市長メッセージ

日頃よりつくばこどもの青い羽根基金へご支援を頂き、ありがとうございます。

2023年3月時点、つくば市の生活困窮世帯の児童・生徒数は1,982人にのぼり、全体の約8.2%を占めています。

家庭の経済格差は子どもの学力格差・体験格差へとつながり、将来的には収入の差へ再帰する可能性があると言われてしています。

つくば市はこの貧困の連鎖を断ち切るため、学習支援や居場所づくり等の事業を行っておりますが、これらの事業の継続・拡大は皆さまから頂いた貴重なご寄付により支えられています。

2022年度においても、多くの企業・団体・市民の皆さまからつくばこどもの青い羽根基金の趣旨へご賛同を頂き、寄付件数は当基金の創設以降最多となりました。

商品の売上の一部をご寄付いただき、寄付付き商品の取り組みにご協力いただいている企業も増え、商品を購入することで、より気軽に寄付に参加できる仕組みづくりも進んでおります。様々な形でご寄付いただいた皆さまに感謝申し上げます。

2022年度には福祉部こども未来室とこども部子育て相談室を統合し、こども未来課を設置しました。子どもに関する相談対応や戸別訪問支援を行う支援員の数が増え、困難を抱えた人のいる場所に直接出向いて支援をする「アウトリーチ」の対象校を市内全小中学校・義務教育学校に拡大したことで、2021年度よりも多くの子ども達に学習の機会や居場所を提供することができました。困難を抱えるすべての子どもや保護者を支援につなげられるよう、今後も事業の拡大に取り組んでまいります。

この度のアニュアル（年次）レポートでは居場所づくり支援事業（青い羽根のいえ）の年間の活動についても紹介しています。皆さまから頂いた寄付金を活用して実施している活動が、子ども達にとって貴重な経験となり、成長のきっかけとなっていることを、より具体的に知っていただければ幸いです。

貧困の連鎖を断ち切り、すべての子ども達が夢と希望をもって成長していける社会をともに創るために、これからもご理解・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

つくば市長



これまでの取り組み

誰一人取り残さない「世界のあしたが見えるまち」を目指して

家庭の経済的な状況に左右されず、子ども達が安心して学び、生活できる環境をつくるためには、貧困から貧困への負の連鎖を断ち切らなければなりません。つくば市は、将来世代に貧困を継続させない仕組みづくりを行っています。

2017年10月
つくばこどもの青い羽根学習会開始

2018年4月
こども未来室設置

新型コロナウイルス感染症の流行に伴う臨時休校で給食がなくなった期間に、経済的理由や保護者の疾病等で昼食をとることが困難な子ども達に弁当等を配布しました

2020年4~6月
※土・日・祝日を除く39日間
新型コロナウイルス感染症の影響に対する食の支援

2021年9月
※土・日・祝日を除く10日間
新型コロナウイルス感染症の影響に対する食の支援

2018年11月
みんなの食堂事業補助金開始

2019年4月
つくばこどもの青い羽根基金創設

2019年4月
子どもの学習塾代助成開始

2020年6月
居場所づくり支援事業（青い羽根のいえ）開始

2022年4月
こども未来課設置

福祉部こども未来室とこども部子育て相談室が一つとなり、より包括的・包摂的に、困難を抱える子どもと保護者を支援できるようになりました



寄付金の活用事業

小さなやさしさの積みかさねが、子ども達の大きな未来につながります

皆さまから頂いたご寄付とボランティアの皆さまのご尽力によって2022年度も多くの子ども達に学びの機会や居場所を提供することができました。

居場所づくり支援事業（青い羽根のいえ）

財源

国
補助金

市
一般財源

青い羽根
基金

孤立を防ぎ、生活習慣を向上させることにより貧困の連鎖を断ち切ることを目的として、複合的な困難を抱える1～9年生を対象に週3日、食事の提供や青い羽根のいえまでの送迎を実施し、安心して過ごすことのできる居場所を提供。

利用する子ども達の状況として、不登校気味だった子どもが自分自身で登校できるようになったり、物や人に当たることでしか感情を伝えることができなかった子どもが気持ちを言葉で表現できるようになり、自分の行動を見直し、他者と交流できるようになった等、良い変化が見られている。

青い羽根のいえでの活動

農業体験



好きな野菜がこんなふう
にできるのは知らなかった

ナスが苦手だったけど、
自分で作ったナスはお
いしかった



食育や自然とのふれあいを目的に、拠点の庭で野菜の栽培を行いました。畑づくりから収穫や調理までを自分達の手で行うことで、嫌いだった野菜をおいしく食べられた子どももいました。目標達成に向けて他者と協働する機会をつくり、コミュニケーション能力や協調性を育むプログラムを実施しています。

プール



こんなに大きいプールは
初めてでびっくりした

ウォータースライダーが
一番楽しかった



子どもからの希望により、県内の施設でプールイベントを実施しました。初めての大規模プール施設や苦手な水泳に戸惑いながらも、子ども同士の交流を通して楽しむことができました。「自分の発言が実現した」という小さな成功体験を積み重ねることで子どもの自己肯定感を向上させる取り組みを行っています。

キャンプ



スイカ割り成功して、夏休み最高の思い出になった

初めてのことが多かったけど、全部挑戦できてよかった



夏休み中でも家庭の複雑な事情で出かけられない子ども達もいます。山梨県で1泊2日のキャンプイベントを実施し、車での長距離移動、野外炊事、天体観測、テント生活、温泉体験、昆虫採集など非日常的な活動を経験する機会を子ども達に提供し、夏休みの思い出づくりを行いました。

クリスマス・お正月イベント



オーナメントを買ったり作ったりしてツリーを飾り付けたのは初めてだった

お餅を焼くのにこんなに時間がかかるなんて知らなかった



クリスマスにはローストチキンやケーキなどのクリスマス料理とオーナメント、お正月には焼餅・伊達巻・鍋などの正月や冬にちなんだ料理をみんなで作りました。献立作り・買い物・調理を通して子ども同士の交流を深めると同時に、家庭では行えなかった文化的な行事を経験する機会を提供しました。

スキー



初めてで最初は怖かったけど、やってみたら楽しかった

またこういう思い出を作れたらいいなあ



栃木県のスキー場でスキーとそり遊びを楽しみました。初めて経験する子どもが多い中、うまく滑れないスタッフや他の子どもを気遣う姿も見られ、新しいことに挑戦する経験や他者と助け合う経験を積むことができました。また、宿泊施設では、大人のサポートのもと入浴・歯磨きなどを行い、生活習慣の確認と指導も行いました。

誕生日会



みんなにお祝いしてもらえたのがうれしかった

すごくうれしかったから、ほかの人の誕生日でもたくさん祝ってあげたいと思った



誕生日の歌、スタッフや他の子ども達からのメッセージが書かれた誕生日カード、みんなで作ったケーキを贈ってお祝いをしました。今後の抱負を発表してもらい、将来について前向きに考える機会を作りました。

つくばこどもの青い羽根学習会

財源

国
補助金

市
一般財源

青い羽根
基金

生活保護または就学援助受給世帯の子どもに対して学習支援や安心できる居場所の提供等を行い、学習習慣や生きる力、自己肯定感を育む。2017年度、2か所から開始。

青い羽根学習会 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
実施箇所数(箇所)	13	14	16	16
登録児童・生徒数(人)	236	299	332	341

アンケートから利用者の声を抜粋



児童

自分の居場所として、勉強したりお話をしたりできるので楽しいです。



保護者

先生方が子どもの話をよく聞いて下さり、ほめて下さることにより自然と自信を持てるようになってきました。

みんなの食堂事業補助金

財源

青い羽根
基金

みんなの食堂実施団体に補助金を交付し、食を通じた居場所づくりを支援する(子どもからお年寄りの方まで誰でも行くことができるみんなの居場所)

- ・補助金額 月1回実施 50,000円/年
月2回以上実施 100,000円/年
- ・補助対象 食材費、消耗品費、保険料など



マップ詳細



市内のみんなの食堂に関する情報をまとめたマップを発行しています

みんなの食堂 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
全団体数	6	7	7	9
うち補助金交付団体数	4	5	5	7
延べ利用者数(人)	379	2,162	3,103	4,233

子どもの学習塾代助成

財源

青い羽根
基金

生活保護または就学援助受給世帯の中学生に学習塾の利用にかかる授業料の一部を助成し、子ども達に学びの機会を提供する。

学習塾代助成 実績	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
利用生徒数(人)	14	21	22	21

アンケートから利用者の声を抜粋



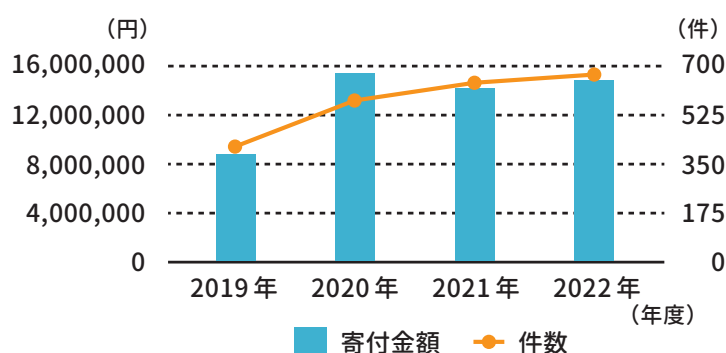
保護者

このような助成金制度のおかげで塾に通わせることができ、希望の高校に合格することができました。ありがとうございました。

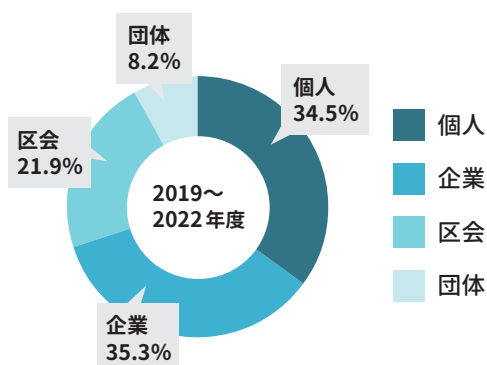
つくばこどもの青い羽根基金実績

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	合計
個人	3,631,055円 (149件)	7,184,504円 (254件)	4,075,367円 (277件)	3,522,987円 (291件)	18,413,913円 (971件)
企業	2,536,367円 (63件)	4,055,801円 (74件)	6,099,638円 (116件)	6,147,894円 (106件)	18,839,700円 (359件)
区会	1,832,661円 (181件)	3,156,274円 (245件)	3,161,290円 (239件)	3,547,576円 (250件)	11,697,801円 (915件)
団体	781,363円 (23件)	1,082,877円 (4件)	857,029円 (8件)	1,643,263円 (17件)	4,364,532円 (52件)
合計	8,781,446円 (416件)	15,479,456円 (577件)	14,193,324円 (640件)	14,861,720円 (664件)	53,315,946円 (2,297件)

寄付金額・件数の推移



過去4年間の寄付金額の内訳



今後の寄付金の活用について

困難を抱える子ども達にとって安心できる居場所や学習支援はより重要なものとなっています。「貧困の連鎖を断ち切る」「誰一人取り残さない」という理念のもと、今後も「つくばこどもの青い羽根基金」を有効に活用し、事業の継続・拡充を行います。

・居場所づくり支援事業（青い羽根のいえ）

学校や関係機関と連携を深め、複合的な困難を抱える子ども達の支援を強化していく。個々の利用の仕方に応じて受け入れできる体制を整えるため、2023年度は週5日で実施中。

・つくばこどもの青い羽根学習会

学習拠点を更に増設し、市内全小中学校区での開設を目指していく。2023年度は拠点を2か所増やし、18か所で実施中。

・みんなの食堂事業補助金

市報やSNS等による事業の周知を強化することで、支援団体を増やし、市内全中学校区での開設を目指していく。

2022年度にご支援いただいた企業・団体の皆さま

※つくばこどもの青い羽根基金に10万円以上の寄付を頂き、公表に同意を得た企業・団体のみ掲載

50万円以上	■ 関彰商事 ■ つくばマラソン実行委員会	(五十音順、敬称略)
30万円以上	■ 東京電機	
20万円以上	■ つくばOAKライオンズクラブ	
10万円以上	■ 茨城県宅地建物取引業協会 ■ ウォーターエージェンシー ■ エキープ K ■ 荃崎地区区会連合会 ■ 幸和義肢研究所 ■ samurai-architect ■ 塚本建装 ■ つくばエッサ ■ つくばキリストの愛教会 ■ つくば市設計事務所研究会 ■ つくば市農業協同組合 ■ つくば市谷田部農業協同組合 ■ つくバディ実行委員会 ■ つくば HOPE ライオンズクラブ ■ トヨシマ総合建設 ■ トレジャーボックス茨城支店 ■ 日本都市開発 ■ 沼尻産業 ■ ペンギンシステム ■ マツザカハウス ■ ユニバーサル技研 ■ 俐玖	

2022年度に寄付付き商品にご協力いただいた企業の皆さま

■ コカ・コーラボトラーズジャパン ■ スペースサービス ■ 八洋 ■ フードテックジャパン ■ ホテル日航つくば	(五十音順、敬称略)
--	------------

誰一人、取り残さない「世界のあした」を。

つくばこどもの青い羽根基金

子どもの未来を支援するための
「つくばこどもの青い羽根基金」に、寄付のご協力をお願いいたします。
寄付金は、世代を超えた貧困の連鎖を断ち切るとともに、
すべての子ども達が夢と希望を持って成長していけるよう
事業に活用させていただきます。

寄付の申込方法

- 1 市ホームページから(クレジットカード決済可)
- 2 申込書(市ホームページに用意)を郵送
- 3 こども未来課で直接

つくばこどもの青い羽根

検索



世界の
あした
が見えるまち。
TSUKUBA

発行

つくば市こども部こども未来課
〒305-8555 つくば市研究学園一丁目1番地1
☎029-883-1111 (代)